

質向上時代の大学評価を再考しよう

荒木 俊博(札幌大学 地域共創教育機構 准教授)

講師略歴

専門は高等教育論、とくに大学評価、内部質保証、教学マネジメント、IR。民間企業、淑徳大学で職員の勤務を経て、現職。現在は地域共創教育機構や学長政策室において内部質保証体制の構築、カリキュラム開発、アカデミック・アドバイジングの実践に従事している。

プログラム概要

第4期機関別認証評価は2025年から始まっていますが、既に今後の大学評価は変わろうとしています。今後の大学評価は「教育の質保証」から「教育の質向上」が必要とされます。そのためには、評価のための評価ではなく、学修者本位の教育を実現するための評価をどう設計し運用するかが問われているといえます。

本プログラムでは、教育の質保証・質向上時代に向けた大学評価をはじめとして教学マネジメントや内部質保証のあり方について、政策動向の整理と先進大学の事例紹介を通じて再考します。参加者には、所属大学の自己点検・評価報告書などの関連資料を手元に置き、論点共有や持ち帰れるヒントを共有するワークを通じて今後の質保証・質向上の実務に活かせることを目指します。皆様のご参加をお待ちしております。

準備物・事前課題

所属大学の自己点検・評価報告書、中期計画やKPI等が分かるもの。

なお、提出は不要です。

手元参照用としてご持参ください。

主な受講対象者

評価、教学マネジメント、内部質保証の実務に関わる教職員。

また教務・FD・SD・IR担当者も歓迎します。

到達目標

1. 自己点検・評価、モニタリング、レビュー、KPI・KGI、中期計画の役割と相互関係を整理することができる。
2. 学修者本位の教育という観点から、所属大学の内部質保証や大学評価の現状と課題を抽出することができる。
3. 他機関の参加者との対話を通じて、質保証実務の改善に向けた具体的なアイデアを得ることができる。